

# 霜月 愛南文芸

## 篠南川柳会

「雲」

草むしる爺に雲が影めぐむ

一人旅寂しくないかはぐれ雲

雲行きが悪い親父のしかめ面

名月も雲がくれして闇夜酒

秋の宵一点雲月かくす

雲行きが変らぬ内に手加減を

お月見も雲で見えぬが酒すすみ

よし決めた今夜のおかずいわし雲

やんちゃ孫宿題さぼり雲がくれ

「蟬」

蟬とりの児も見えず終る夏休み

沢山の蟬があちこちならび鳴く

## 菊川俳句会

自慢する肉体年齢体育の日

赤とんぼ規律正しや回れ右

もっちゃん

芝田

すみ子

千代子

ゆき子

木本

さつき

国松

安子

保美

みち子

中川 一喜

浅野勇一郎

コーヒーにケーキを食し馬肥ゆる

仏壇に供えし柿の赤ひかる

夕やけに光ましたる烏瓜

お供えの秋の味覚をひとりじめ

小野山シマ子

長田 高明

村尾加都子

長田千恵美

## さわらび短歌会

卓上の若き尾花はクーラーの風に小さく揺れて休まず

入院の友を見舞ひてまた会ひぬ若き患者の暗き眼差し

実りたる田圃に長く稲木立ち数多の人の立ち働きおり

庭の鉢転がすのみに台風の過ぎ行きて淡き日の差して来ぬ

看取り終え悔い多きわれを思いみるもの言えぬ夫に胃ろうせしことも

粉を焼く煙地をはふ黄昏にせめぎ合ふやうに曼殊沙華立つ

里人は誰も喜びその日待つ我が集落に花嫁の来る

台風は逸れて港に避難して漁師ら舳う互いの船を

台風は逸れて高知と日本海へ集いも日を延べ呆然と居り

急斜面がつつりつかむみかんの木海風受けて色付きてゆく

「ふるさと」とふ手話教はりて帰り来る夕べの徑にアキアカネ飛ぶ

澤近 正弘

藤井 擴

河上 明美

松本マス子

水野美代子

前田 知子

岩村千代子

前田 昭夫

扇野八代生

野崎 幸子

前田 充

## はじめまして。赤ちゃん。

9月受付分(敬称略)

地区名	子の名	保護者
-----	-----	-----

## ご冥福をお祈りします。

9月受付分(敬称略)

地区名	亡くなった方	享年
-----	--------	----

※上記情報は、広報誌掲載に対して、ご家族等に同意をいただいております。